

令和2年度 荒尾市保健・福祉・子育て支援施設（仮称）基本構想策定業務 第1回基本構想策定委員会 議事録要旨

■開催概要

日時：令和2年 10月06日（火）14：00～16：00

場所：荒尾市役所2階 市長公室

出席者：委員13名、事務局12名

	所属・役職	氏名（敬称略）
委員	熊本大学 熊本創生推進機構大学院担当准教授	田中 尚人
	荒尾市医師会 副会長	伊藤 隆康
	荒尾市健康づくり推進員協議会 会計	黒岩 由美子
	荒尾市食生活改善推進員協議会 書記	大塚 恵子
	荒尾市社会福祉協議会 事務局長	小川 公子
	荒尾市民生委員児童委員協議会連合会 会長	甲斐田 忠
	荒尾市老人クラブ連合会 副会長	和田 トミ子
	荒尾市身体障害者福祉協会連合会 会長	斎 浩史
	荒尾市保育協議会 会長	伊藤 美佳子
	熊本県私立幼稚園連合会荒玉支部荒尾地区 理事長	開田 郁子
	荒尾市保育園保護者会連合会 会長	石崎 剛
	荒尾市PTA連合会 会計	坪根 ゆり
荒尾市地区協議会会長会 会長	河部 啓宣	
事務局	荒尾市 保健福祉部	片山部長、塚本参与
	荒尾市 福祉課	宮本課長
	荒尾市 子育て支援課	原口課長
	荒尾市 保険介護課	岩本課長
	荒尾市 すこやか未来課	田代課長、柴田課長補佐、小宮係長、前広副主任
	パンフィックコンサルタンツ株式会社	山口、江本

■次第

- 1 開会
- 2 委嘱状の交付
- 3 市長挨拶
- 4 委員紹介
- 5 委員長、副委員長選出及び挨拶
- 6 諮問
- 7 議題
 - ① 策定委員会の役割、検討スケジュール、基本構想の目次構成
 - ② 南新地土地区画整理事業、施設の基本理念（コンセプト・方向性）について
 - ③ ニーズ把握調査の報告
 - ④ その他（今後のスケジュール等）

■議事概要

- ① 策定委員会の役割、検討スケジュール、基本構想の目次構成
 - ・事務局より説明を行った。

- ② 南新地土地地区画整理事業、施設の基本理念（コンセプト・方向性）について
 - ・事務局より説明を行った。

<コンセプト・方向性について>

（委員長）

- ・ 保健、福祉や子育てをテーマに考えていくが自由な意見をいただきたい。団体や個人的など何か困っていることなどについて発言をお願いしたい。

●独居老人、民生委員について

（A 委員）

- ・ 独居老人の問題がある。民生委員だけに任せていいのか、協働して見るべきではないか？
- ・ 団体間の横の連絡がうまくいけば独居老人への見守りが充実して福祉に繋がる。

（B 委員）

- ・ 大賛成だ。民生委員と区長が連携して見守りモニターを実施している地区もある。
- ・ つながりが必要であり、つながるためにはいろいろなやり方がある。民生委員の欠員もあることから、知恵を出し合って見守り組織があれば良い。
- ・ 実働部隊としての協議会（のような）ものがあれば良い。

（C 委員）

- ・ （荒尾市の）民生委員の欠員率は県内で一番高い。欠員補充したくともなり手が見つからない。荒尾市社会福祉協議会としても（欠員補充に）頑張りたい。
- ・ 社協の役割として各団体との連携をとっていく必要があると常日頃考えている。
- ・ 連携については、様々な団体を社協がまとめ切れていない現状、課題がある。

（B 委員）

- ・ 民生委員の活動について「なり手が無いのは忙しいから？」といった話があったが、忙しさには個人差がある（ので一概にはそうとは言えない）。

（委員長）

- ・ 個人差、地域差？

（B 委員）

- ・ 地域差もある。高齢者が少ない地区もあれば、高齢者が多くを占める地区もある。

（委員長）

- ・ 役所には、部署ごとに担当する業務があって、それを基本に仕事をしているということがあるが、保健、福祉や子育てを考える上ではそういった所管を超えて課題や問題の解消を図ることに取り組む必要がある。

●横のつながり、かかりつけ医などについて

(D 委員)

- ・ 障がい者も高齢化して一人暮らしが多くなっている。70 歳代の方の所在が不明となって民生委員と一緒に探したいが個人情報保護を理由になかなか探せない。(かかりつけと思われる) 病院などでも個人情報であるからと教えてくれず居所が分からない。その際には入院していることが分かって事なきを得たが、横のつながりがなければ安否の確認ができない。

(A 委員)

- ・ 主治医の役割は重要ではないか。(高齢者を支える) 地域づくりで考える必要がある。

(E 委員)

- ・ かかりつけ医の登録率は 6 割位。制度上、主治医に登録すると患者負担が多くなるのであまり勧められない。(患者の) 支払いが増えなければそのような役割を果たすのも良いこと。重症化の防止、健診(検診)率の向上を図る必要がある。
- ・ 荒尾は重症化して人口透析(が必要)になっていく。健診率をあげたいが、どの人が健診を受けてないか、主治医を持っていないか、などが解っていない状況。市と連携してやっていきたい。
- ・ なお、健康手帳(くまもん手帳)は希望者に配布することになっており、手帳を活用することで重症化防止を図れ、健康につながる。

●市の子育て環境や療育施設の要望などについて

(F 委員)

- ・ 働く保護者が多く、その(保護者の)親も現役(で働いている)ことから、子どもが病気になると(世話をするために誰かが仕事を)休まなければならないので困る。
- ・ 悩み相談などがあるが幼稚園、小学校、中学校と子どもの成長に合わせてつながっていけば良い。専門的な相談ができる場所が欲しい。

(G 委員)

- ・ 保育園が市内に 9 園あるものの(需要に対して)不足している。90 人定員の保育園がもっと必要だ。0 歳から預ける家庭が増えている。新型コロナウイルスで地域のつながりが難しくなっている。
- ・ 要望がある。それは療育施設。自閉症、知的レベルは高いが人とのかかわりが難しい子や ADHD(注意欠如・多動症)が増えている。そのような子は診断後 1~2 年して手当てが出ることから「診断施設」と「療育施設」を市内につくってもらいたい。
- ・ また、一時保育が十分ではないし、病児・病後児保育を友枝先生のところ(注:こどもクリニック友枝)でやってもらっているが(需要に対して)不足しており十分ではない。
- ・ 働き方についても、子供の具合が悪い時はすぐに帰れるような環境作りも大切。
- ・ 37 度台の熱があっても園でお迎えが来るまで園の方で見ないといけない現状がある。

(委員長)

- ・ 新型コロナウイルス対策としての在宅勤務で変わったことがあった。G 委員の意見は大切。他の市と荒尾市とを比較してみることが大事。

(G 委員)

- ・ 療育の認定を受けるための診断証明書については、小児科の医師の診断書だけで判断するのではな

く子育て支援課の課長などが現場を見て判断してもらいたい。

(H 委員)

- ・ 私は県外からの転入者だがファミリーサポートセンターを活用するなど荒尾市の子育て支援は充実していると感じている。
- ・ 孤育てで（子育ての「子」を孤独の「孤」に置き換えて表すような）孤独を感じるころも、子育て支援センターなどで母親の集いに参加するなどして息抜きができています。
- ・ 南新地の施設についてということだが、子どもが玉名の中学校に通っているが自宅が荒尾駅から遠いこともあり、送迎が負担となっている。
- ・ バスの便も少なく、一時は自転車で駅まで往復させていたが熱中症が心配となって止めさせたこともあった。
- ・ 荒尾駅から近いこの場所に図書館などがあれば（迎えに行くまでの時間調整に）便利だ。
- ・ 高齢者などとのつながりについては、緑ヶ丘小学校とPTAで徘徊者への声掛けなど、地区協議会や子ども会と一緒に訓練を行った。地域でのつながりができるよう努力している。

(委員長)

- ・ ここだけを良くするのではなく荒尾市全体が良くなるべきであり、南新地と緑ヶ丘を一緒に考えるべきだ。

(I 委員)

- ・ 私には子どもが5人おり、それぞれがさまざまな問題を抱えている。資料に「子どもが遊ぶ場所が少ない」と表記されているが「遊ぶ子どもが居ない」「子どもが家の中で遊んでいる」といった実態があるのではないかと。子どもはゲーム、親はスマホなど。
- ・ ゲームよりも楽しいものがあるよと親が外に出る環境をつくる必要がある。親と子が一緒に居る場所があれば良い。体育館などもあれば良い。

●在宅ネットあらかの移設について

(E 委員)

- ・ 荒尾市医師会は、在宅医療連携室として「在宅ネットあらか」を医師会館の敷地内で運営している。南新地ではこれを整備してもらいたい。
- ・ 子育てから高齢者までスムーズにケアできるのではないかと。相談などもできるのではないかと。

(委員長)

- ・ いろんなまちで様々な取り組みを行っている。例えば廃校になった校舎で実現するといったことも考えてもらいたい。ハードとソフトがかみ合わないものにはしたくない。

●荒尾駅について

(D 委員)

- ・ 交通面での意見。荒尾駅がバリアフリーではない。車いすで利用する場合には、駅員の補助を受けて線路に降りてからホームに移動する。

- ・ 聞くと「駅利用者が3千人以上あればバリアフリーにしてもらえる」とのこと。荒尾駅の利用者を増やすような魅力がある地区にしてもらいたい。

(E 委員)

- ・ おもやいタクシーもあるし自動運転バスなども検討されていることだから人口増につながって荒尾駅の利用者も増えるのでは？ そうなればバリアフリーにできる。

(A 委員)

- ・ 大正町の地域としては、荒尾駅の改修ではなく根本的に荒尾駅をつくるよう市長に要望しているところ。
- ・ (炭鉱住宅地であった) 緑ヶ丘地区は(リニューアルに)成功したことから賑やかになったが、もともと荒尾市の中心は荒尾駅前だった。
- ・ 今はゴーストタウンのような光景となっていることから荒尾駅の問題は地域でも考えなくてはならない。

●その他

(E 委員)

- ・ 新型コロナウイルスでは様々な制約があるが、これは、いつかは終息する。新型コロナウイルスを理由に、計画を縮小したり、違う方向に行く必要はない。

(C 委員)

- ・ 子育て世代包括支援センターも(南新地の)この施設に入るのではないかと？ そうであれば一人の子どもを長期間みていけるのではないかと？ 保健・福祉サービスの最適化やすみわけも含め、そのあたりの議論も期待したい。

(J 委員)

- ・ 体力アップ体操を推進している。29か所の公民館で約400人が楽しく体操している。歩いて行ける公民館で4~5人から60人の体操教室もある。元気な高齢者であるよう、それぞれが自分の健康を考える必要がある。

(K 委員)

- ・ 子ども親子料理教室の開催や高校生に郷土料理を教えるなど、「食」をとおして健康を推進している。本市の朝食を食べない子どもや20代~30代の割合が全国平均よりも高い。栄養バランスを考えている人が少ない。(南新地にできる)道の駅と連携することで、食と健康に興味をもってもらえれば良いと思う。

(委員長)

- ・ 親と子どもが一緒に取り組むことが大切。全てを(この施設で実現することは)できないが、どこかで実現できたらと考える。

(委員長)

- ・ とても活発にご意見をいただきましたありがとうございました。(この施設のコンセプトや方向性

などは) 専門家が考えるところであろうが皆さんも一緒に考えてもらいたい。

- ・ 荒尾駅周辺だけが栄えるだけではいけない。荒尾市全体が良くなる必要がある。
- ・ これからよろしく願います。

③ ニーズ把握調査の報告

- ・ PCKK より説明を行った。

④ その他 (今後のスケジュール等)

- ・ 事務局より説明を行った。
- ・ 次回は 11/17 (火) の予定。

以 上